

## 令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果について【小学校】

宇都宮市教育委員会

各種学力調査を有効に活用して児童生徒の学力向上を図るためには、調査結果を分析して児童生徒の学力や学習状況等についての成果や課題を明らかにした上で、課題の解決に向けて学習指導の工夫・改善を図ることや実効性のある取組を見いだし実践することが大切です。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本市立小学校児童の学力や学習状況の概要、指導の改善策などをまとめました。

## 参考：「とちぎっ子学習状況調査」について

## 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善（学力向上PDCA）サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

## 2 調査期日・調査対象 令和4年4月19日（火） 第4学年、第5学年

## 3 調査内容

## (1) 教科に関する調査

- ① 調査教科 国語・算数・理科
- ② 出題範囲 調査する学年の前学年までの学習内容
- ③ 出題内容 学習指導要領に基づき、教科の目標及び内容に即した知識及び技能、思考力・判断力・表現力等に関わる内容



## (2) 質問紙調査

- ① 児童質問紙調査 学習意欲、学習方法、学習環境、家庭学習等に関すること
- ② 学校質問紙調査 指導に関する取組や学習環境等に関すること 等

## 4 本市の参加状況

- (1) 学校数 宇都宮市立小学校 69校（69校中）
- (2) 児童数 第4学年 国語 4,093人 算数 4,094人 理科 4,104人  
第5学年 国語 4,059人 算数 4,054人 理科 4,066人

## 5 留意事項

## (1) 調査結果について

本調査は、対象となる学年や実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

## (2) 教科に関する調査について

- ① 調査結果のデータについては、本市の傾向等を示すために、教科全体及びカテゴリ別の平均正答率、正答率度数分布を示した。
- ② 平均正答率等の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「傾向と課題」「指導の工夫・改善」等の分析を併せて記載した。
  - ・ 「傾向と課題」は、領域等ごとに良好な状況や課題が見られた設問の状況を記載した。  
※「良好な状況が見られるもの」と「課題が見られるもの」は、正答率が県平均より高い（低い）設問などを基に考察した。
  - ・ 「指導の工夫・改善」は、調査結果に見られた課題を解決するため、今後の学習指導において参考となるポイントを中心に記載した。

## (3) 質問紙調査について

本市の推進する教育施策と関連の深い質問及び県との比較において本市の特徴が見られる質問を取り上げて、調査結果と傾向、考察を示すとともに、クロス集計結果も踏まえた指導の工夫・改善のポイントを記載した。

## (4) 用語について

「カテゴリ別平均正答率」等の中で、学習指導要領において領域による内容構成を行っていない教科についても、内容のまとまりなどを「領域等」として表記した。

# 1 小学校第4学年 国語

## 平均正答率

(%)

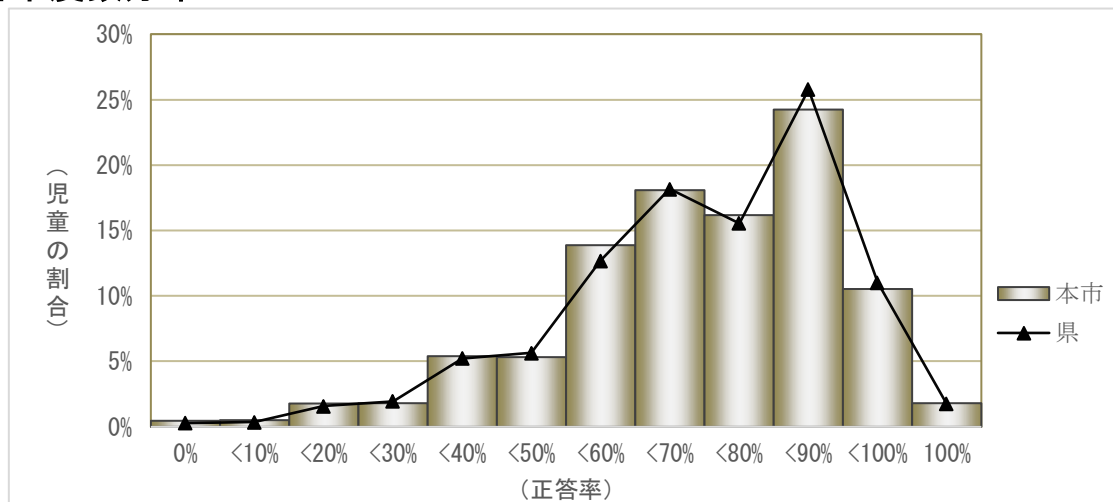
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	68.7	69.5	△0.8

## カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
基礎		73.3	74.3	△1.0
活用		58.6	58.7	△0.1
領域等別	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.1	76.7	△1.6
	情報の扱い方に関する事項	49.6	47.8	1.8
	我が国の言語文化に関する事項	84.0	85.9	△1.9
	話すこと・聞くこと	66.5	65.5	1.0
	書くこと	59.6	64.2	△4.6
	読むこと	62.2	61.5	0.7
観点別	知識・技能	70.2	71.1	△0.9
	思考・判断・表現	62.9	63.6	△0.7
	主体的に学習に取り組む態度	63.0	65.5	△2.5

## 正答率度数分布



## 傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

### 言葉の特徴や使い方に関する事項 (県平均との差 $\Delta$ 1.6 ポイント)

- 漢字を書くことに関する設問の平均正答率は 64.3%で、県平均を 3.1 ポイント下回る。漢字を正しく書くことに課題が見られる。

### 情報の扱い方に関する事項 (県平均との差 1.8 ポイント)

- 情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する設問の正答率は 56.9%で、県平均を 1.5 ポイント上回る。文章中にある、要約するために必要な語句を適切に捉えることに良好な状況が見られる。

### 我が国の言語文化に関する事項 (県平均との差 $\Delta$ 1.9 ポイント)

- 漢字のへんやつくりを問う設問の正答率は 84.0%で、県平均を 1.9 ポイント下回る。漢字の部首を正しく理解することに課題が見られる。

### 話すこと・聞くこと (県平均との差 1.0 ポイント)

- 話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える設問の正答率は 82.1%で、県平均を 2.1 ポイント上回る。話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、話の内容を把握することに良好な状況が見られる。

### 書くこと (県平均との差 $\Delta$ 4.6 ポイント)

- 指定された長さや二段落構成という条件で文章を書くこと平均正答率は 47.8%で、県平均を 5.4 ポイント下回る。段落の役割を理解し、段落ごとに必要な情報を書き表すことに課題が見られる。
- 自分の考えとそれを支える理由を書くこと平均正答率は 67.8%で、県平均を 3.6 ポイント下回る。理由を明確にして文を書くことに課題が見られる。

### 読むこと (県平均との差 0.7 ポイント)

- 物語を読んで人物の気持ちを捉える設問の正答率は 79.3%で、県平均を 1.5 ポイント上回る。人物の様子について、叙述を基に適切に捉えることに良好な状況が見られる。

## 指導の工夫・改善

### 書くこと

- ・ 今回の文章を書く設問では、指定された長さで書くことと、二つの段落に分けて書くことが条件として示された。具体的には、一段落目で自分の立場を明確にすること、二段落目にその考えを支える理由を書くことが求められた。学習指導要領の、第3学年及び第4学年の「書くこと」の指導事項には、内容のまとまりで段落をつくることや、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書くことが示されている。調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動をおとして、段落の役割や段落相互の関係に注意して構成を考える学習や、理由や事例を記述する際の表現（「なぜなら～」 「例えば～」等）を用いて書く学習が必要である。

### 言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・ 漢字を書くことについては、漢字が、へんやつくりなどから構成されていることを理解したり、熟語による漢字の使用を増やしたりしながら、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにすることが大切である。漢字辞典や1人1台端末を使って漢字の読みや意味、部首などを調べ、色々な熟語や短文を書くなど、知識及び技能の定着を図る必要がある。

## 2 小学校第4学年 算数

### 平均正答率

(%)

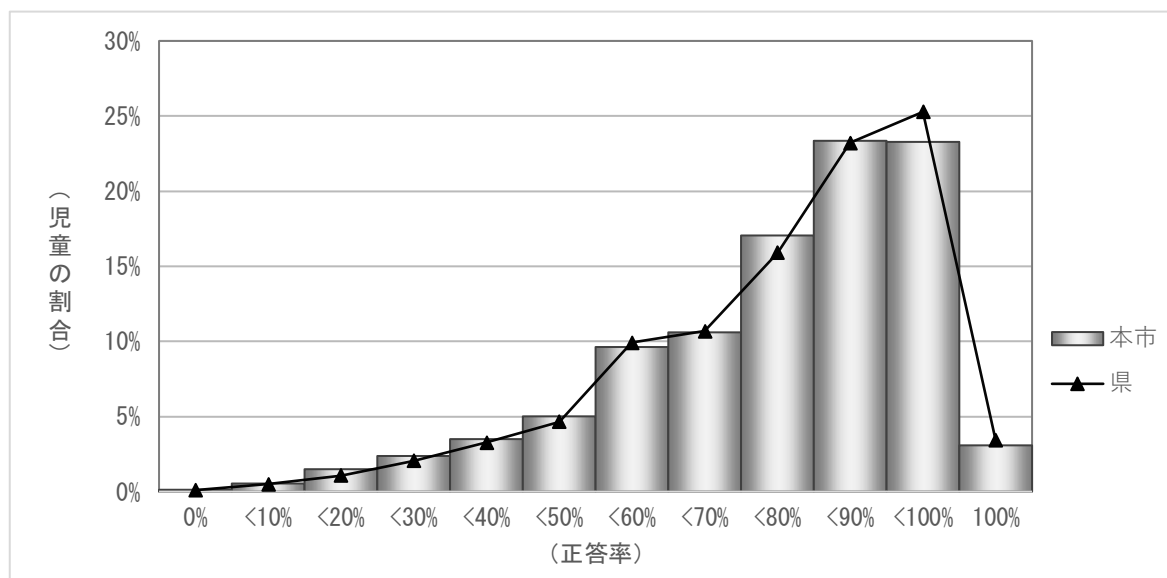
	宇都宮市 (市立) a	栃木県 (公立) b	差 a - b
教科全体	74.0	75.1	△1.1

### カテゴリー別平均正答率

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
基礎		78.1	79.2	△1.1
活用		59.5	60.3	△0.8
領域等別	数と計算	73.8	74.8	△1.0
	図形	63.7	65.3	△1.6
	測定	78.9	80.1	△1.2
	データの活用	89.3	90.0	△0.7
観点別	知識・技能	78.3	79.5	△1.2
	思考・判断・表現	58.6	59.5	△0.9
	主体的に学習に取り組む態度	72.3	73.1	△0.8

### 正答率度数分布



## 傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

### 数と計算 (県平均との差 $\Delta 1.0$ ポイント)

- □を使った加法の式に合った文章問題を選ぶ設問の正答率は78.9%で、県平均を0.5ポイント上回る。式の意味を理解し、読み取ることに良好な状況が見られる。
- 分子が1の分数が何個で1になるかを問う設問の正答率は56.4%で県平均を0.8ポイント下回り、分数を数直線上に示す設問の正答率は66.5%で県平均を1.6ポイント下回る。分数の意味の理解に課題が見られる。
- 計算をする設問(7問)の正答率は、県平均を0.2~1.7ポイント下回る。加法、減法、乗法の筆算や割り切れる除法などの技能の定着に課題が見られる。

### 図形 (県平均との差 $\Delta 1.6$ ポイント)

- ボールがぴったり入る箱のある辺の長さをもとにボールの半径の長さを求める設問の正答率は61.2%で、県平均を3.2ポイント下回る。球の半径について理解し日常生活の場面で用いることに課題が見られる。

### 測定 (県平均との差 $\Delta 1.2$ ポイント)

- 時こくと時間の計算や単位換算、地図上の道のりの計算、はかりの目盛りの読み方の設問の正答率は80%前後であるが、県平均を0.7~2.4ポイント下回る。測定に関する意味の理解を伴う技能の定着に課題が見られる。

### データの活用 (県平均との差 $\Delta 0.7$ ポイント)

- 棒グラフを正しく読み取る設問の正答率88.9%で、県平均を0.9ポイント下回る。棒グラフで表現されたデータの意味を正しく理解し、必要な情報を読み取ることに課題が見られる。

## 指導の工夫・改善

### 図形

- ・ 図形の学習では、観察や操作活動を通して、図形を構成する要素に着目し、図形の意味を理解したり、図形の性質を見付けたり、図形の性質を確かめたりすること、図形の構成の仕方について考察することなどが重要である。
- ・ 図形領域をより深く学ぶ方法として、本設問のように、既習の図形を複合的に組合せ、構成要素を関連させて考察し、それが日常生活に活用できないかなど発展的に考える数学的活動を充実させることは大変有効であると考えられる。その際、念頭操作に頼らず、実際に図形を操作したり作図したりするなど、実感を伴う活動を取り入れられるように配慮したい。

### 測定

- ・ 測定の学習では、身の回りの事象を量に着目して捉え、量についての概念及び測定の原理と方法を理解する活動を通して、量感覚を豊かにすること、量の単位を用いて的確に表現すること、学習したことを生活や今後の学習に活用することなどが重要である。
- ・ 例えば、長さや重さ、時間などの数値化された量を日常的に取り上げ、たし算やひき算をさせる学習を定期的に行い、量の加法性の概念を定着させることは有効である。

### 3 小学校第4学年 理科

#### 平均正答率

(%)

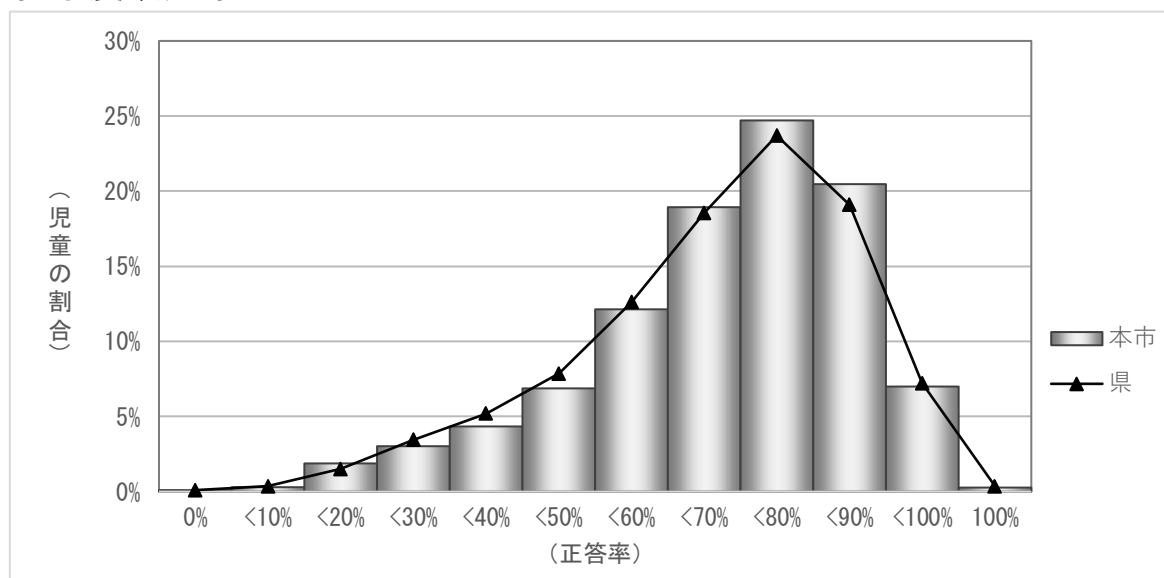
	宇都宮市 (市立) a	栃木県 (公立) b	差 a - b
教科全体	65.8	65.0	0.8

#### カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	a-b
基礎		73.9	73.1	0.8
活用		46.9	46.2	0.7
領域等別	物質・エネルギー	62.5	61.5	1.0
	生命・地球	69.2	68.6	0.6
観点別	知識・技能	77.2	76.3	0.9
	思考・判断・表現	54.4	53.7	0.7
	主体的に学習に取り組む態度	45.5	44.9	0.6

#### 正答率度数分布



## 傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

### 物質・エネルギー (県平均との差 1.0ポイント)

- 音と糸の振動の正しい関係を指摘する設問の正答率は 80.6%で、県平均を 2.2 ポイント上回る。音と物体の振動の関係性についての理解に良好な状況が見られる。
- 電気の通り道が回路であることを答える設問の正答率は 72.4%で、県平均を 3.8 ポイント上回る。電気に関する基礎知識の習得に良好な状況が見られる。
- 鉄くぎがどのような磁石になるのかを指摘する設問の正答率は 41.3%で、県平均を 1.8 ポイント下回る。鉄が磁石になる時の性質についての理解に課題が見られる。

### 生命・地球 (県平均との差 0.6ポイント)

- ホウセンカの体のつくりの観察結果から、ヒマワリの体のつくりについて推測する設問の正答率は 87.7%で、県平均を 2.7 ポイント上回る。植物の体のつくりの共通性についての理解に良好な状況が見られる。
- 棒温度計の目盛りを読む設問の正答率は 81.3%で、県平均を 2.6 ポイント上回る。棒温度計の目盛りの正しい読み方の定着に良好な状況が見られる。
- 体の特徴から、生き物の中から昆虫を選ぶ設問の正答率は 69.8%で、県平均を 1.5 ポイント下回る。昆虫の定義を理解し、そのことを根拠に思考・判断することに課題が見られる。

## 指導の工夫・改善

### 物質・エネルギー

- 磁石の性質に関する学習では、単元の最後等に、今回出題された問題のような「ものづくり」を行うことも有効な学習方法の1つである。「ものづくり」は、学習の定着度を確認したり、学習の有用性を感じさせたりすることに大変有効な方法であるとともに、新たな知見との出会いや新たな発想を生み出す学習としても有効であり、特に小学生においては、科学の楽しさを感じさせ、生涯にわたる科学教育の基礎を固める観点から、実施が望まれる学習活動の1つである。また、既習事項が生活に利用されている場面を紹介したり、既習事項を生活の場面に生かす方法を考えたりすることも有効な方法の1つである。

### 生命・地球

- 実験・観察の技能については、棒温度計の目盛りの正しい読み方の定着に良好な状況が見られることから、各学校において、児童の活動場面の充実が図られているとともに、正しい操作方法の指導が徹底されていると考えられる。活動を伴った学習活動は、児童の学習意欲を向上させるとともに、学習の定着度を向上させる効果があるので、引き続き行っていくことが望まれる。
- 昆虫の体のつくりに関する学習では、理科の見方・考え方のうち、特に共通点・差異点に注目しながら観察を行うことが必要である。また、単元の終わり等に、今回出題された問題のような対話による学習場面を設けることも効果的であり、獲得した知識を使って思考・判断する学習場面を設定することにより、学習の定着の深化や学習意欲の向上を図ることができる。

#### 4 小学校第5学年 国語

##### 平均正答率

(%)

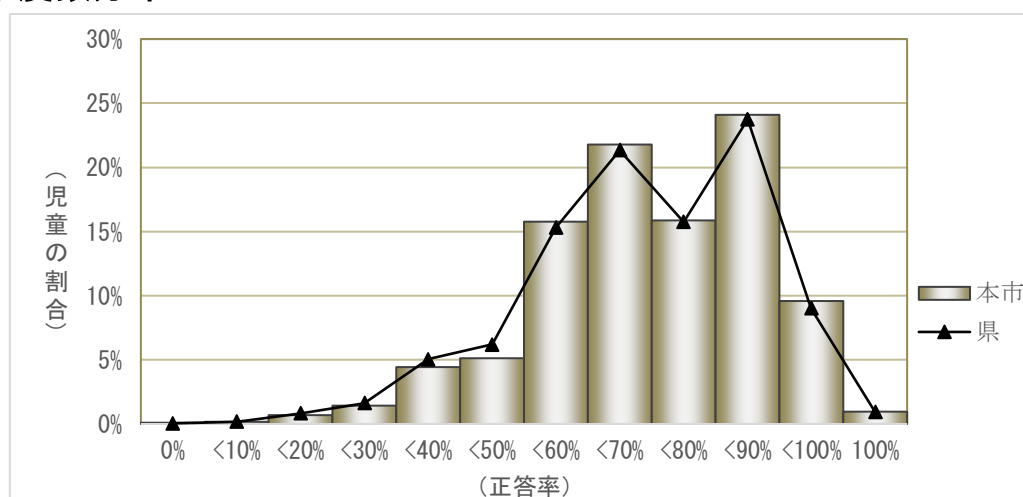
	宇都宮市 (市立) a	栃木県 (公立) b	差 a - b
教科全体	69.4	68.6	0.8

##### カテゴリー別平均正答率

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
基礎		75.0	74.0	1.0
活用		57.0	56.5	0.5
領域等別	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.4	74.1	1.3
	情報の扱い方に関する事項	60.5	60.2	0.3
	我が国の言語文化に関する事項	67.7	67.8	△0.1
	話すこと・聞くこと	61.0	60.7	0.3
	書くこと	51.2	52.8	△1.6
	読むこと	73.7	72.4	1.3
観点別	知識・技能	71.7	70.6	1.1
	思考・判断・表現	63.5	63.2	0.3
	主体的に学習に取り組む態度	48.2	48.1	0.1

##### 正答率度数分布





## 傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

### 言葉の特徴や使い方に関する事項 (県平均との差 1.3ポイント)

- 漢字の読み書きに関する設問の平均正答率は 88.0%で、県平均を 2.9 ポイント上回る。漢字を正しく読んだり、書いたりすることに良好な状況が見られる。

### 情報の扱い方に関する事項 (県平均との差 0.3ポイント)

- 情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する設問の正答率は 65.5%で、県平均を 1.3 ポイント上回る。文章中にある、要約するために必要な語句を適切に捉えることに良好な状況が見られる。

### 我が国の言語文化に関する事項 (県平均との差 $\Delta 0.1$ ポイント)

- ことわざについて問う設問の正答率は 67.7%で、県平均を 0.1 ポイント下回る。ことわざの意味や使い方について正しく理解することに課題が見られる。

### 話すこと・聞くこと (県平均との差 0.3ポイント)

- 話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える設問の正答率は 91.7%で、県平均と同等である。話し方に着目し、話の要点を捉えることに良好な状況が見られる。

### 書くこと (県平均との差 $\Delta 1.6$ ポイント)

- 指定された長さや二段落構成という条件で文章を書くことの平均正答率は 54.9%で、県平均を 2.6 ポイント下回る。段落の役割を理解し、段落ごとに必要な情報を書き表すことに課題が見られる。
- 話の中心を明確にし、事実と自分の考えを書くことの正答率は 39.1%で、県平均を 1.2 ポイント下回る。事実と意見を区別して書くことに課題が見られる。

### 読むこと (県平均との差 1.3ポイント)

- 説明文を読んで叙述を基に内容を捉える設問の平均正答率は 78.9%で、県平均を 2.3 ポイント上回る。書き手の考えがどのような事例によって具体化されているのかについて叙述を基に捉えることに良好な状況が見られる。

## 指導の工夫・改善

### 書くこと

- ・ 今回の文章を書く設問では、指定された長さで書くことと、二つの段落に分けて書くことが条件として示された。具体的には、一段落目で資料から読み取ったことを書くこと、二段落目に資料から読み取ったことを基に自分の考えを書くことが求められた。学習指導要領の、第3学年及び第4学年の「書くこと」の指導事項には、内容のまとまりで段落をつくることや、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書くことが示されている。調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動を通して、段落の役割や段落相互の関係に注意して構成を考える学習や、自分の考えを記述する際には、理由や事例を踏まえて書く学習が必要である。

### 我が国の言語文化に関する事項

- ・ ことわざや慣用句、故事成語などの学習では、長い間使われてきたそれらの言葉について意味を知り、先人の知恵や教訓、機知に触れるとともに、日常生活でも使うようにすることが大切である。ことわざや慣用句、故事成語などに多く触れるためには、意味を調べるだけでなく、学級で言葉集めをしたり、カードなどに書いて掲示したりする工夫や、短文作りなどにより実際に使う機会を意図的に設けるなど、知識及び技能の定着を図る必要がある。

## 5 小学校第5学年 算数

### 平均正答率

(%)

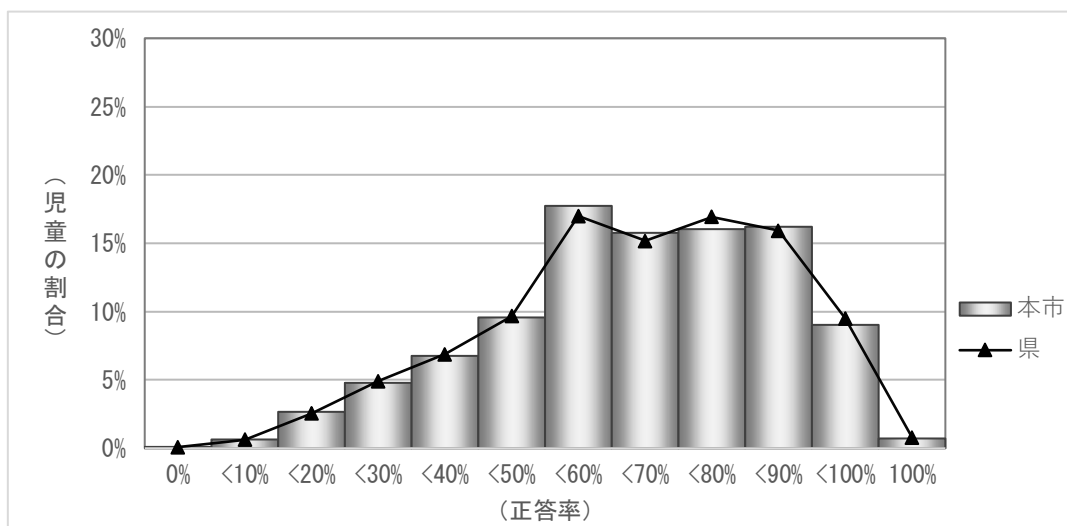
	宇都宮市 (市立) a	栃木県 (公立) b	差 a - b
教科全体	63.2	63.4	△0.2

### カテゴリー別平均正答率

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
基礎		68.1	68.4	△0.3
活用		53.8	53.7	0.1
領域等別	数と計算	66.1	66.4	△0.3
	図形	58.9	58.8	0.1
	変化と関係	66.6	67.0	△0.4
	データの活用	54.4	54.2	0.2
観点別	知識・技能	70.4	70.6	△0.2
	思考・判断・表現	47.2	47.5	△0.3
	主体的に学習に取り組む態度	47.8	48.8	△1.0

### 正答率度数分布



## 傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

### 数と計算 (県平均との差 $\Delta 0.3$ ポイント)

- 整数、仮分数、帯分数、真分数の大小を比較する設問の正答率は41.9%で、県平均を1.0ポイント下回る。分数の意味や表し方についての意味の理解に課題が見られる。

### 図形 (県平均との差 0.1 ポイント)

- 角の大きさの設問において、分度器の読み取り方の正答率は85.4%で、県平均を0.7ポイント上回り、360度より小さい角の大きさを求める計算の正答率は76.3%で、県平均を1.6ポイント上回る。角の大きさの単元における基本的な技能の定着に良好な状況が見られる。
- 平行四辺形の作図の設問の正答率は56.9%で、県平均を3.4ポイント下回る。作図技能の定着に課題が見られる。

### 変化と関係 (県平均との差 $\Delta 0.4$ ポイント)

- 2種類のゴムの伸び具合を比較する設問の正答率は63.8%で、県平均を1.5ポイント上回る。2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて比べることに良好な状況が見られる。
- 伴って変わる2つの数量の関係を式で表す設問の正答率は50.3%で、県平均を1.4ポイント下回る。関係式を、等号を用いて表すことに課題が見られる。

### データの活用 (県平均との差 0.2 ポイント)

- 2つの都市の一年間の気温を比較し、気温差が最小の月を求める設問の正答率は66.9%で、県平均を1.5ポイント上回る。2つの折れ線グラフを比較して必要なことを読み取ることに良好な状況が見られる。
- 図書室の利用についてまとめた2次元表を読み取る設問の正答率は21.6%であり、県平均を1.0ポイント上回るが、無回答率が18.3%であり、県平均を2.4ポイント上回る。データをまとめた表の意味を理解し、必要な情報を読み取り、言葉・数・式等を用いて説明することに課題が見られる。

## 指導の工夫・改善

### 数と計算

- ・ 第4学年の分数では、分数の意味や表し方についての理解を深めるとともに、同分母の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができるようにすることが重要である。また、分数を構成する単位(単位分数)に着目し、大きさの等しい分数を探したり、計算の仕方を考えたりするとともに、それらを日常生活に生かそうとする態度や能力を高めることが求められている。そのためには、既習の整数や小数と関連付け、数概念の拡張を意識させることが重要であり、数直線を用いて、多様な数を表現させ、大小を比較させる活動なども有効であると考えられる。

### 変化と関係

- ・ 関数の考えを高めるためには、日常の具体的な場面において、表や式、折れ線グラフを用いて変化の様子を表したり、変化の特徴を読み取ったりすることができるようにするとともに、伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察する活動を充実させることが有効である。

## 6 小学校第5学年 理科

### 平均正答率

(%)

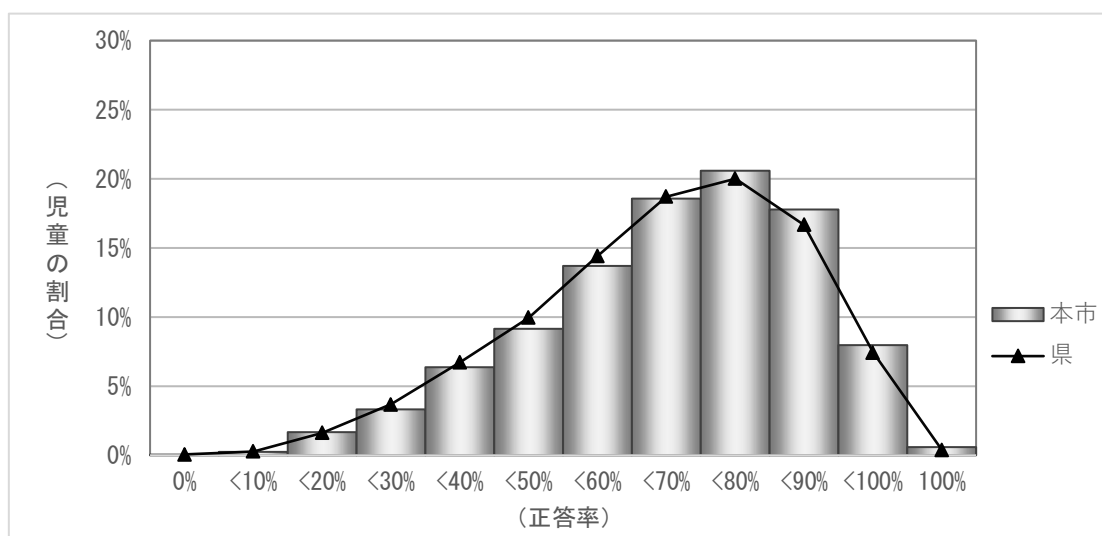
	宇都宮市 (市立) a	栃木県 (公立) b	差 a - b
教科全体	65.2	64.3	0.9

### カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	a-b
基礎		73.7	72.8	0.9
活用		47.4	46.4	1.0
領域等別	物質・エネルギー	58.1	57.2	0.9
	生命・地球	71.1	70.0	1.1
観点別	知識・技能	75.5	74.4	1.1
	思考・判断・表現	52.7	51.9	0.8
	主体的に学習に取り組む態度	42.4	41.7	0.7

### 正答率度数分布



## 傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

### 物質・エネルギー (県平均との差 0.8ポイント)

- 乾電池の向きと電流の性質の関係性を答える設問の正答率は64.0%で、県平均を2.0ポイント上回る。乾電池の向きを変えると電流の向きが変わることについての理解に良好な状況が見られる。
- 水を加熱する時に沸騰石を入れる理由について答える設問の正答率は80.3%で、県平均を3.0ポイント上回る。実験方法や実験に関する道具等の役割についての理解に良好な状況が見られる。
- 沸騰による変化の予想が正しかった場合に、得られる実験結果を考察する設問の正答率は56.1%で、県平均を1.3ポイント下回る。予想や仮説に基づく結果について考察することに課題が見られる。

### 生命・地球 (県平均との差 1.3ポイント)

- サクラの変化の様子について正しく並び替える設問の正答率は72.5%で、県平均を2.9ポイント上回る。サクラの変化の様子についての理解に良好な状況が見られる。
- 気温を測る条件について正しくないものを選択する設問の正答率は76.4%で、県平均を2.9ポイント上回る。気温を正しく測るための条件についての理解に良好な状況が見られる。
- 記録温度計の記録から、天気の変化の様子を推測する設問の正答率は30.7%で、県平均を0.7ポイント下回る。気温の変化の様子から、天気の変化について推測することについて課題が見られる。

## 指導の工夫・改善

### 物質・エネルギー

- ・ 理科の学習においては、問題解決の過程を大切に学習を展開することが重要であり、その過程における予想や仮説を立てることは、学習の見通しを持たせるとともに、理科の見方・考え方を働かせ、思考力、判断力を向上させるために必要となる場面であることから、十分な時間を設け、対話的に学習を進めることが望まれる。予想や仮説を立てる際には、児童の考えを生かし、誤答も含めて検討することができるようにするとともに、理科の見方・考え方を働かせながら、話し合いを進めることができるよう、コーディネートする必要がある。

### 生命・地球

- ・ グラフ等から分析を行うことは、教科の特性上、非常に重要なことであり、じっくりと取り組みたい学習活動の1つである。気象に関する学習においては、教科書には無い身近な地域や直近の気象データ等を扱うことで、児童の主体性を高めるとともに、複数のデータの比較により、児童の思考力を高めることができることから、授業者は、気象庁のHPなどの各種データを活用するなど、より学習効果の高い素材を児童に提供するよう心がけたい。

## 7 小学校質問紙調査

### 【児童質問紙調査】

#### 調査結果（全 94 問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、4・5年生ともに県平均と3ポイント以上差があり本市児童の特徴を表すものを取り上げた。（教科等別の学習に関する設問を除く）
- ・ 肯定的な回答の割合は、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した割合の合計である。

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合			
		4年生		5年生	
		宇都宮市	県平均との差	宇都宮市	県平均との差
1	授業を集中して受けている。	91.0%	1.0	92.9%	0.2
2	学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。	70.7%	△2.8	75.4%	△0.7
3	勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある。	82.9%	2.4	85.3%	1.2
4	授業では、授業の目標（めあて・ねらい）が示されている。	88.4%	1.4	92.5%	0.8
5	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている。	84.2%	△0.1	90.1%	0.7
6	授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。	72.6%	△1.9	79.5%	△1.3
7	グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。	73.6%	0.0	75.7%	0.2
8	クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	76.9%	0.3	79.0%	0.8
9	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。	51.9%	△0.4	48.9%	0.0
10	授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しくない。	34.2%	△3.8	37.5%	△2.2
11	家で、自分で計画を立てて勉強をしている。	68.0%	△2.7	70.6%	△1.6
12	家で、学校の授業の復習をしている。	58.5%	△4.8	61.7%	△5.0
13	家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。	60.8%	0.1	61.8%	3.3
14	学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）、1日当たりの勉強時間（学習塾や家庭教師を含む） ※1時間以上	42.3%	△5.2	53.5%	△3.2
15	自分には、よいところがあると思う。	82.1%	2.4	82.7%	3.6
16	地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある。	72.7%	1.6	74.9%	1.6
17	先生は学習のことについてほめてくれる。	85.9%	2.1	88.9%	1.9
18	家の人、ほめてもらいたいことをほめてくれる。	86.3%	2.2	88.1%	2.7
19	家の人と将来のことについて話すことがある。	67.6%	2.5	69.3%	4.9
20	家の人と学習について話をしている。	78.4%	1.9	81.8%	3.6
21	普段（月～金曜日）、1日当たりのテレビゲームをする時間 ※1時間未満	36.3%	2.1	32.8%	2.6
22	普段（月～金曜日）、1日当たりの携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間 ※1時間未満、持っていない	81.8%	3.9	81.9%	3.7

## 傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの 下線部…「結果概要」との主な関連

### 学ぶ意欲・授業について (No. 1～10)

- No. 1 の肯定的な回答の割合は 90%以上であり、特に高い。授業の受け方のきまりを作成・活用するなどして学習規律の徹底を図る指導が行われていると考えられている。
- No. 3 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。教材や発問を工夫し、児童の知的好奇心を大切にされた指導が行われていると考えられる。ただし、No. 2 の肯定的な回答の割合は、県平均を下回っており、学習課題を発見する学習過程を一層工夫するなどして、主体的に学ぶ態度を育てる必要がある。
- No. 5～6 の肯定的な回答の割合は県平均を一部下回っており、学習の目標とめあてをノートに書いて共通理解を図る活動や、授業の終末に児童が本時で学んだことなどを振り返って書く活動を着実に行う必要がある。
- No. 9 の肯定的な回答の割合は 50%前後に留まっているとともに、No. 10 については県平均を下回っている。自分の考えを話したり書いたりして表現する力を育む指導を工夫することが必要である。

### 家庭学習について (No.11～14)

- No. 11～12 の肯定的な回答の割合と No. 14 の家庭学習の時間について、県平均を下回っている。家庭学習の習慣化に向けた指導を一層推進していく必要があると考えられる。

### 自分自身のこと・家の人や先生について (No.15～20)

- No. 15 の肯定的な回答の割合は県平均より高く、特に小5は3ポイント以上高く、上回り方が大きい。児童のよさを認め励ます指導が推進されていると考えられる。
- No. 16 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。地域の教育資源を活用した学習や、社会の問題について考える学習が積極的に取り入れられていると考えられる。
- No. 18～20 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。家庭の理解や協力を得る取組が推進され、連携が図られていると考えられる。

### 毎日の生活について (No.21, 22)

- No. 20, 21 のテレビゲームをする時間、携帯電話やスマートフォンの使用時間について、1日1時間未満の児童の割合は県平均を上回るが、令和元年度と比べるとほぼ同じであり、「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」に基づく取組などの一定の効果が図られていると考えられる。

## 【学校質問紙調査】

### 調査結果（全 72 問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、県平均と 10 ポイント以上差があり（児童の様子については 4・5 年生ともに 10 ポイント以上差のあるもの）本市の特徴を表すものを取り上げた。（本調査問題及び全国学力・学習状況調査問題活用に関する設問を除く）
- ・ 肯定的な回答の割合は、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した割合の合計である。（No. 9～12 の肯定的な回答の割合は、「学校全体で」「どちらかといえば、学校全体で」の割合の合計）

### 〈児童の様子〉

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合			
		4 年生		5 年生	
		宇都宮市	県平均との差	宇都宮市	県平均との差
1	児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。	84.1%	△0.5	87.0%	2.7
2	児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができている。	84.1%	0.3	88.4%	0.7
3	児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかり伝えることができている。	84.1%	0.3	89.9%	3.9
4	児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。	81.2%	3.2	87.0%	7.0

### 〈学校の取組〉

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	県平均との差
5	児童の様々な考え方を引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている。	98.6%	0.8
6	自分の考えを文章にまとめる指導（記述）を重点的に行っている。	95.7%	7.4
7	授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている。	92.8%	5.9
8	「ねらい」「指導」「評価」のつながりを意識した授業づくりを行っている。	97.1%	△1.2
9	児童の実態を把握して、宿題を出している。	94.2%	3.9
10	やり方を児童に十分説明して、宿題を出している。	94.2%	5.6
11	宿題の内容に応じて評価し、児童に伝える工夫をしている。	91.3%	10.4
12	宿題の意図について保護者へ説明をしている。	97.1%	6.5
13	教職員間で、互いの授業を見せ合っている。	100%	6.6
14	全体で行う研修と小集団で行う研修を効果的に組み合わせている。	98.6%	5.4
15	本調査実施後、調査対象学年の児童に対して、全てまたは一部調査問題を解かせることで、習得状況を確認している。	89.9%	△3.6
16	本調査実施後、調査対象学年の 1 学年下の児童に対して、全てまたは一部調査問題を解かせることで、習得状況を確認している。	79.7%	△1.4
17	調査結果の分析を全教職員で行っている。	97.1%	4.5



## 傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの 下線部…「結果概要」との主な関連

### 児童の様子 (No. 1～4)

- No. 1～4の肯定的な回答の割合は、No. 1の小4で県平均を下回っている以外は、全て県平均を上回っている。児童同士の学び合いや、他者と協働して課題を解決しようとする授業展開が図られていると考えられる。

### 授業における学習指導 (No. 5～8)

- No. 5の肯定的な回答の割合は90%以上であり、特に高い。思考力や表現力を育むため、言語活動の充実が図られていると考えられる。
- No. 6の肯定的な回答の割合は県平均を7ポイント以上上回っている。自分の考えを話したり書いたりして人に伝えることにより、表現する力を育む指導の充実が図られていると考えられる。

### 家庭学習の指導 (No. 9～12)

- No. 9～12の肯定的な回答の割合は90%以上であり特に高いとともに、県平均を上回っている。家庭学習の習慣化に向けた取組が推進されていると考えられる。

### 校内研修の充実 (No.13, 14)

- No. 13, 14の肯定的な回答の割合は90%以上であり特に高い。各学校において、目指す授業の方向性を共通理解した上で、授業力向上を目指す実践が定着していると考えられる。

### 学力調査の活用 (No.15～17)

- No. 17の肯定的な回答の割合は約95%であり、特に高い。調査結果をもとに成果や課題を把握し、学校全体で指導改善に生かす取組が推進されていると考えられる。
- No. 15, 16の肯定的な回答の割合は、県平均を下回っている。学習内容の習得状況や課題の改善状況を確認するために、学力調査の問題の活用を工夫する必要があると考えられる。

## 【児童質問紙調査と教科の正答率のクロス集計結果】

- ・ 選択肢が「はい」、「どちらかといえば、はい」、「どちらかといえばいいえ」、「いいえ」である質問について、それぞれの選択肢を選んだ児童の3教科の平均正答率から、意識と平均正答率との相関を分析している。

より肯定的な選択肢を選んだ児童ほど平均正答率が高く、「はい」と回答した児童と「いいえ」と回答した児童間で平均正答率の差が大きい質問は、正答率との関係があると考えられる。

### ＜「はい」、「いいえ」と回答した児童の間で正答率の差が大きい主な質問＞

No.	質問の内容	宇都宮市			
		「はい」、「いいえ」の平均正答率の差		肯定的な回答の割合	
		4年生	5年生	4年生	5年生
1	授業を集中して受けている。	20.3	18.5	91.0%	92.9%
2	勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある。	12.0	13.4	82.9%	85.3%
3	疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。	9.0	10.9	67.7%	64.5%
4	授業の中で、目標（めあて・ねらい）が示されている。	16.9	20.6	88.4%	92.5%
5	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている。	11.8	18.3	84.2%	90.1%
6	授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。	13.3	13.7	72.6%	79.5%
7	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。	16.5	21.4	78.7%	86.2%
8	授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。	10.7	6.6	81.8%	83.3%
9	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている。	16.3	18.8	93.6%	95.9%
10	クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。	12.2	13.6	76.9%	79.0%
11	授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しくない。	9.2	10.3	34.2%	37.5%
12	家で、自分で計画を立てて勉強をしている。	7.2	11.6	68.0%	70.6%
13	家で、学校の授業の復習をしている。	6.6	9.6	58.5%	61.7%
14	家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。	3.8	8.2	64.7%	64.6%
15	地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある。	9.2	8.5	72.7%	74.9%

**傾向と考察** 正答率が高い児童ほど、以下の問いに対して、肯定的に回答している傾向が見られ

**学ぶ意欲・授業について**

No. 1	授業を集中して受けている。
No. 9	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている。

➡ いずれも、既に肯定的な回答の割合が高い状況ではあるが、今後とも学習規律の維持・徹底に努めることは大切であると考えられる。

No. 2	勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある。
No. 3	疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。

➡ 授業では、教材を工夫して問いを持たせることや、課題解決の過程を大切にした授業展開を取り入れることが大切であると考えられる。

No. 4	授業の中で、目標（めあて・ねらい）が示されている。
No. 5	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている。
No. 6	授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。

➡ 授業では、目標（めあて・ねらい）やまとめについては、確実にノートに書かせるなどして児童一人一人がその内容を認識できるようにすることが大切であり、振り返りについては、目標に応じて振り返る視点を明確にしたり児童がノートに書いた内容を発表させたりしながら、児童が本時の学びを自覚できるものとなるように指導を工夫することが大切であると考えられる。

No. 7	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。
No. 8	授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。
No. 10	クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。

➡ 授業では、児童一人一人が考えを発表する機会を保障することや、話し合いの場の設定を工夫することが大切であると考えられる。

また、授業のねらいを踏まえて話し合いの必要性や学習形態（ペア、小集団、学級全体）を吟味すること、さらに、話し合う目的や話し合いの仕方を発達の段階等に応じて児童へ適切に示すことが大切であると考えられる。

**家庭学習について**

No. 12	家で、自分で計画を立てて勉強をしている。
No. 13	家で、学校の授業の復習をしている。
No. 14	家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。

➡ 家庭学習の計画の立て方や復習の仕方、間違えた問題について勉強することなど、家庭学習の仕方を具体的に指導し、児童が効果的な家庭学習の仕方を身に付けられるようにすることは大切であると考えられる。

**社会との関わりについて**

No. 15	地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある。
--------	----------------------------

➡ 地域や社会の事象を授業の教材や宿題に取り入れることが大切であると考えられる。